

防災メモ 震災に備えて シリーズ⑧

普段から気をつけたい火災。しかし、私たちの生活は常に火と隣り合わせです。誤った知識で消火を行うと、危険が増す場合があります。

万が一、出火した場合に備えて正しい知識を持ちましょう。

カーテンはひきちぎる

炎が天井に燃え移ってしまふと初期消火は困難です。水での消火が間に合わない場合は引きちぎってから、足で踏みつけるなどして消火しましょう。

避難するタイミングは、天井に炎が燃え移ったときです。火災による煙が発生している場合は、ハンカチなどを口にあて身を低くかがめる必要があります。布団を寝たばこで焦がしてしまった場合等は特に念入りに消しましょう。綿の

製品などは少しでも種火が残っていると再び燃える場合があります。

● 問い合わせ先

生活安全課  
☎(40)5555

電気製品から出火したら

感電の危険あり。必ずプラグを抜くか、ブレーカーを切ってから消火する



髪に火がついたら

頭に布きれや衣類をかぶって消したあと、水をかぶって完全に消火する。



油なべに火が入ったら

- ①ガスの元せんとしめる。
- ②消火器を使うときは、油が飛び散らないように、なべのふちや壁に消火液をぶつけて、反射させるようにしてかける。
- ③消火器がないときは、大きなフタを手前からすべらせるようにかぶせて空気を断つ方法や、ぬれシーツなど一気にかぶせて油温を下げる方法をとる。



浴室から出火したら

消火器や水を準備して、少しずつ戸を開ける。いきなり開けると新鮮な空気が補充されるため、火の勢いが強まってしまう。



衣類に火がついたら

すぐに水をかぶるか、床や地面にころがって火を消す。



カーテン、ふすま、障子などに火がついたら

- ①火が小さいうちは、水をたたきつけるようにかける。立ち上がっている火には、上のほうをめがけて、半円を描くように水をまく。
- ②水がまに合わなければ、カーテンはひきちぎり、障子やふすまはけ倒して足で踏んで消してもよい。



石油ストーブを倒したら

- ①ぬれぞうきんなどを使って引き起こす。無理ならば、そのまま消火してもよい。
- ②消火はぬらした毛布などをかぶせてから水をかける。

